

加藤一夫 かとう いちお 詩人、小説家、評論家、翻譯家。明治二十年一月、千
八百九十八年一月、千五百九十九年一月、千五百九十九年一月。明
治四十二年明治學院神學部卒。人民派詩派の詩人を經て無政府主義團體
體自由人聯盟創設の、のち農本主義、天皇中心主義の思想轉回。

譯書、レオ・トルストイ作『闇の輝く光』(大正二年十一月五日文明

堂)、ロマン・ロラン著『エトオフェン並のシンエ』(大正四年

四月二十八日洛陽堂)、トルストイ著『我等何を信ずべき乎』(大正

五年十一月十日洛陽堂)、同作『愛ある處に神あり』(大正六年一月

十二日洛陽堂)『一般人叢書』(、『美

術上の基督』(大正六年十一月十二

日聲望社書店)、『トルストイ全集』

(共譯、第五卷・大正八年一月二十

八日、第四卷・二月二十日、十一卷

・十月十八日、第十卷・十一月一

十一日春秋社)、エルネスト・ルナン著『耶穌の生涯』(大正十年一

月十五日杜翁全集刊行會、春秋社發賣『杜翁紀念文庫』(、『トルメ

トイ短篇選集』(編、大正十年八月四日洛陽堂)、パスカレ著『隨感

錄』(大正十年九月十八日杜翁全集刊行會、春秋社發賣)等。

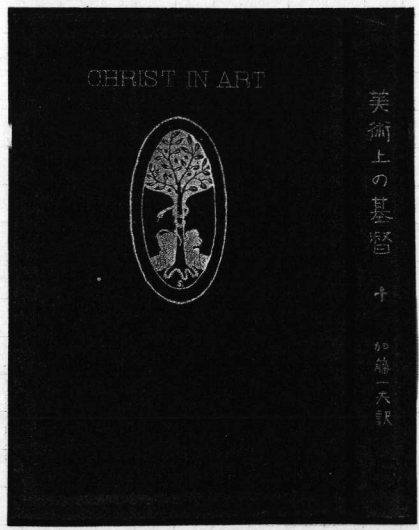
著書『加藤一夫著作集』(第一編『響けぬ鐘』大正十年四月二十日春

秋社)、『呪はる世相』(大正十二年五月二十日文化社)、『村の

襲心波』(大正十四年十一月二十日大阪澤號書店)、『新興文學全集

第五卷『日本・V』(宮地喜六集・加藤一夫集
藤井眞澄集・新井紀一集)、『昭和四年十一月五

日平凡社)、『農民藝術論』(昭和六年二月十日春秋社『春秋文庫』)



美術上の基督 十 加藤一夫訳

クロポトキン 義著 『クロポトキンの藝術論』 (編、昭和六年四月十日春

秋社「春秋文庫」)、 『土の哲學』 (昭和九年十一月十五日建設社

「建設文庫」)、 『老子』 (昭和十年一月二十日日本評論社)、 『資

者の安住』 (昭和十年四月二十五日

不_レ「屋書房」)、 隨筆 『私は出家し

た』 (昭和十一年五月二十一日學藝

社)、 『キリスト』 (昭和十二年八

月二十日第一書房)、 『戦争の理論』

(合著、昭和十二年十二月一日日本

評論社『日本評論』十二年十二月二號別

冊附録)、 『新修日本精神讀本』 (合著、昭和十二年九月二十五日大

阪・朝日新聞社)、 『日本信仰(記・紀)現れた日本人の神觀』 (昭

和十二年十二月二十日恒星社)、 『天

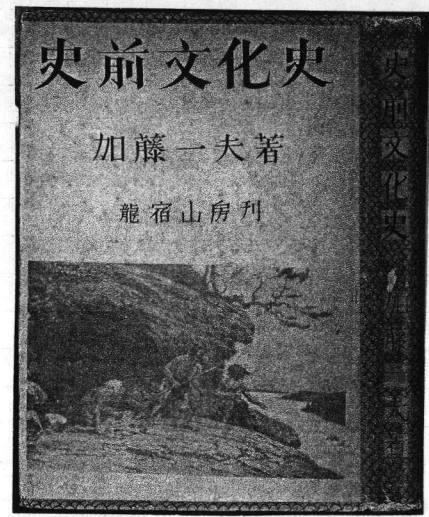
皇信仰』 (昭和十六年七月十五日龍宿

山房)、 『生死の思索』 (合著、昭和

十六年十二月二十日教材社「思索叢

書」)、 『史前文化史』 (昭和十七年

四月十五日神奈川・龍宿山房)、 『肇



國詩話めい_レん_レん_レ』 (昭和十七年十月二十日神奈川・龍宿山房)、 『聖書』

全二冊(上卷・昭和二十年五月十日、下卷・六月二十日富井堂本社)

等。

